

第
14
回

日本小児心身医学会 関東甲信越地方会



大会テーマ

自らのこころの姿勢の再確認

— 子どものこころと向き合うとき —



参加費

.....
会員/非会員ともに
2000円

開催
日時

2024年 3月17日(日)

ハイブリッド開催

現地会場

アオーレ長岡

市民交流ホールA

特別講演 1

西澤 哲 山梨県立大学

『虐待臨床の場で
出会った子どもたち』

特別講演 2

田中 究 兵庫県立ひょうごこころの医療センター

『被災地の子ども
のこころのケアのいま』

参加登録、
演題募集は
こちらから
どうぞ



<https://jsppkks2023.online/>

大会長 田中 篤 (長岡赤十字病院小児科)
共催 長岡市教育委員会

お問合せ

第14回日本小児心身医学会関東甲信越地方会事務局 長岡赤十字病院内
Fax : 0258-28-9000 E-mail : jsppkks2024@gmail.com

ごあいさつ

第14回日本小児心身医学会関東甲信越地方会 大会長
田中 篤（長岡赤十字病院 小児科）

子どものこころの領域において、私たちは多くの現実の問題や対応に迫られて、日常診療や支援に追われがちな毎日を送っています。ともすると早く問題解決をしようとして対応の方に気持ちが行ってしまい、子ども・家族を安易に分かったつもりになってしまう傾向を感じるがあります。特に発達障害に関係した臨床では、そうなりがちであることを感じます。子どもの抱えている病態の本質に深く迫り、治療効果を生み出すために、治療者・支援者が子ども・家族とともに不確かで曖昧な状況にひたすら耐える、持ちこたえる能力「ネガティブ・ケイパビリティ（Keats,J.、Bion,W.R.、帚木蓬生）」が必要とされる場面は少なくありません。そのためには、治療者・支援者に、子どもと家族に対しての積極的な「興味」と「敬意」、「理解の途上にとどまり続けること（Anderson & Goolishian）」、共感に基づいた真の「親切」が必要となります。昨年、残念ながらお亡くなりになった中井久夫先生は、「存在してくれること、そばにいてくれることが最大の価値である」という大切なメッセージを残されていて、同じような意味を感じます。

治療者・支援者の基本的姿勢、原点とも言える「興味」「敬意」「親切」という視点から、医療・子どもとの関わり、自らのこころの姿勢を再確認したいと考えています。

特別講演として、上記のことを念頭に置いて、お二人に講演をお願いしました。私なりに自分の臨床経験を振り返って、子ども虐待の臨床と災害後の子どものこころの支援活動から得たものが、子どものこころに向き合う時の自分のこころの姿勢に大きく影響してきたと実感しています。そこで、子ども虐待の領域から西澤哲先生に、災害時の子どものこころの支援の領域から田中究先生に特別講演をお願いしました。このお二人の講演を通して、子どものこころに向き合う時の自らのこころの姿勢を再確認できたらと願っています。皆さまの積極的なご参加と活発な討論をお願い申し上げます。